
すべての人に健康と福祉を

1年4組 柴

田薫

SDGs番号

3

すべての人に
健康と福祉を



なぜこのテーマにしたのか

わたしがこのテーマにしたのには理由があります。

それは、国によって医療を積極的に受けられる地域と受けづらい地域をコロナによってより詳しく知ったからです。私は今まで食糧問題や衛生面で発展途上国が遅れているのは知っていましたが、医療面でも遅れが出ているのはニュースを見て知りました。今までは、そこまで医療の格差に関心を持ったことがなかったので、地域によって格差があるということは3のテーマにもつながることだと思ったので選びました。

現状

サハラ以南のアフリカ地域では2人に1人の子供が風邪で肺炎になっても治療を受けられません。日本では病気になったらお医者さんに治療をしてもらうことは当たり前ですが、現在でも医師や保険員が足りていない国があります。日本では人口**414人**に対し、お医者さんが1人いる計算ですが**世界では数万人に1人**しかお医者さんがいないということも珍しくありません。

←病気になっても治療を受けられない子供たち



医師1人に対し…

マラウイ

63,694人

日本

414人



出典

<https://www.unicef.or.jp/kodomo/sdgs/17goals/3-health/>

課題

3-1 2030年までに赤ちゃんがおなかにいるときや、お産のときに、命を失ってしまうお母さんをうまれる赤ちゃん10万人当たり70人未満にまで減らす。

3-2 すべての国で、生まれて28日以内に命を失う赤ちゃんの数を1000人当たり12人以下まで、5歳までに命を失う子供の数を1000人当たり25人まで減らし、2030年までに、赤ちゃんや幼い子供が予防できる原因で命を失うことがないようにする。

3-3 2030年までに、エイズ、結核、マラリアや見はなされてきた熱帯病などの伝染病をなくす。また、肝炎や、汚れた水が原因で起こる病気などの対策を進める。

3-4 2030年までに予防や治療をすすめ、感染症以外の病気で人々が早く命を失う割合を三分の一に減らす。心の健康への対策や福祉も進める。

課題

- 3—5 麻薬を含む薬物やアルコールなどの乱用を防ぎ、治療を進める。
- 3—6 2020年までに、交通事故による死亡やけがを半分にまで減らす。
- 3—7 2030年までに、すべての人が、性や子供を生むことに関して、保健サービスや教育を受け、情報を得られるようにする。国はこれらのことを国の計画のなかに入れてすすめる。
- 3—8 すべての人が、お金の心配をすることなく基礎的な保健サービスをうけ、値段が安く、かつ質の高い薬を手に入れ、予防接種をうけられるようにする。
- 3—9 2030年までに、有害な化学物質や、大気・水・土壌の汚染が原因でおこる死亡や病気を大きく減らす。

解決策

3—a すべての国で、**タバコを規制する条約**で、決められたことが実施されるよう、必要に応じて取り組みを強める。

3—b 主に開発途上国で大きな影響を及ぼす病気に対する**ワクチンや薬の開発**を助ける。また、国際的な約束の宣言に従って、**安い値段で薬やワクチンを開発途上国にも届けられるようにする**。

3—c 開発途上国、特に、最も開発が遅れている国や島国で、**保健に関わる予算と、保健サービスに関わる職員の数や能力、その人達への研修を大きく増やす**。

3—d すべての国、特に開発途上国において、**その国や世界で健康を脅かす危険な状態が発生したときに、それにすばやくきずいて知らせ、危険な状態を減らしたり、対応したりする力を強める**。

提言

今、私達にできること

- ・ワクチンを届けるための寄付や、募金活動に参加すること。（寄付は少額から可能）
- ・ワクチンを届けるためのペットボトルのキャップや、書き損じハガキなどの不要になったものを送ることなどを送る方法。
- ・日本国内でもできるボランティアに参加する。たとえばイベントスタッフとしては働くなど。（もちろん海外でもできる）



感想

私は今回SDGsの3についてまとめました。17項目もあるのに3の課題を書くだけでこんなにたくさんの問題が残っているとは思わず、世界での格差はまだ多く残っているのだなと辟易しました。小学校の頃から赤い羽根募金やペットボトルのキャップ回収などがありましたでしたが毎回参加することができなかったので今後はもっと募金や回収に協力していきたいです。

